

選ばれる企業となるために

サステナビリティを社会と共有する

北米に拠点を置くイノアックのグループ会社であるINOAC Packaging Group (IPG)は高品質なPET製ボトルや容器を製造する国際的なメーカーです。グローバル化粧品ブランドを含む幅広い顧客向けに容器を製造しており、ブランドコンセプトに沿った生産を行っています。また、顧客の先にいる消費者が、使用する商品の品質やリサイクル、環境課題対応について注視するようになっており、消費者の関心ごとや課題解決に対応できるよう、顧客とともに考え、提案ができるよう努めています。

製品・サービス

CUSTOM

PET素材を成形してカスタマイズされたオリジナルの容器を製造。初期コンセプトから3D CAD、3D試作型、容器サンプル、装飾に至るまで、プロジェクトのすべての段階で顧客に寄り添い、期待を超えるような容器づくりを行っています。



STOCK

さまざまな容量に適応したストック品を提供。さまざまな装飾、色付け、つや消しオプションにも対応しています。また、パッド印刷やシルクスクリーン印刷などの設備もあり、幅広い表面加工が可能です。



SPECIALITY

顧客が希望する新しい容器にも対応しています。メタリックコーティング、エンボス加工などを施し、独自性の強い容器を提供。顧客の理想とするコンセプトを実現しています。



サステナビリティの考え方、体系整理

主要顧客であるグローバルコスメメーカーや日用品メーカーが重きを置く、消費者のサステナビリティに対する意識はIPGにとっても重要な課題と認識しています。デザイン性や品質、環境影響などに対しては、過去において法規制遵守の徹底を図ってきましたが、将来課題も含めた積極的な取り組みが必要と考えています。2018年には、これらの対応を図るため、EHSマネジメントシステムとして包括的な推進体制を構築しました。

これにより、すべての活動に関して環境影響、社会影響の両面を常時検証して、常に改善を図ることが可能となりました。

サステナブルな社会への寄与

イノベーションを推進する
パッケージングカンパニー

IPGの独自性

競争上の優位性

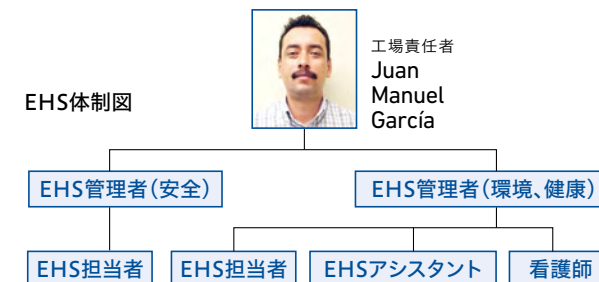
市場のニーズに応える

コスト削減

より速い配達

プロセスによる実現

ユニークなデザイン



EHSのマネジメント体制としては工場長をトップとし、安全衛生と環境それぞれの側面を主管するマネージャーがアセスメント、計画策定、教育・啓発、モニタリングといった一連のPDCAを管理しています。これらのマネジメントシステムは、BRS認証※1やISCC PLUS認証※2といった外部認証を取得するとともに、取引先の要望や各国法規制動向、国際的な規範の変化といった広い視野をもって常に改善を図っています。

昨今においては、EcoVadisなどサプライチェーンマネジメントに関する評価なども自らの取り組みを検証するためのツールとして利用し、より具体的に詳細な継続的改善に努めています。



BRS認証状

※1:品質管理システム、環境、食品安全、情報セキュリティ、およびその他の管理システムに関して世界的に運営されている認証機関

※2:リサイクル プラスチック、バイオプラスチック(有機プラスチック)、およびバイオマテリアルが対象とするプログラム。バリューチェーン全体において製品のトレーサビリティを保証し、企業がこの新しい分野で重要な環境および社会的基準を満たしていることを確認

Message

EHSマネジメントを担当することで、これまで以上に会社への貢献を認識できるようになっただけでなく、社会との関わりも意識できるようになりました。

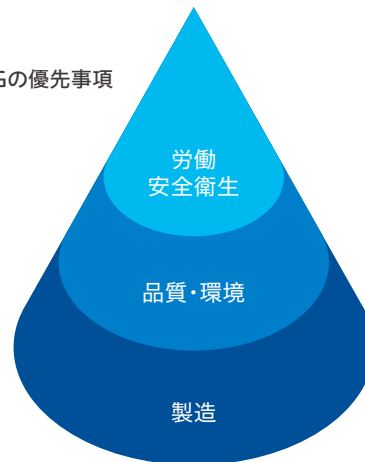


EHS管理者(環境、健康)
Doraly Coronel

具体的な取り組み

IPGでは、EHSマネジメントを行う上で、労働安全衛生や品質、環境影響を考慮することは製造現場に不可欠と考えています。特に労働安全衛生については、従業員だけでなく、その家族にも関連する重要な事柄ととらえ、事故などを起こさない文化醸成に努めています。

IPGの優先事項



労働安全衛生意識の徹底

労働安全は、製造拠点において何より重要なことです。これらの実現のためには、適切なアセスメントを実施し、リスク排除を常に行う必要があります。

設備・機器自体やその使用におけるリスク、健康面などといったリスク側面を洗い出し、情報の共有、教育・啓発、入構時のモニタリングなどを徹底しています。

これらの活動は従業員一人ひとりの意識と細やかな改善の継続が必要です。IPGの生産部門でもあるIPM社では、電子システムを導入。気が付いたときに報告することができ、その内容による報奨制度も取り入れています。2023年には36件の報告があり、改善を進めました。

2021年安全教育例

1. IPMの優先事項
2. 組織図
3. 安全規則
4. 不安全行動の結果
5. 緊急時の対応
6. 消火器の使用
7. 機械の安全装置
8. 荷物の正しい持ち上げ方
9. 安全保護具
10. 害虫予防と異物混入からの製品保護
11. COVID-19の予防措置



環境保全の取り組み

環境保全に関する取り組みは、各国の法規制の遵守を前提にした上で、自社の生産効率をいかに考えていくかといった課題でもあります。

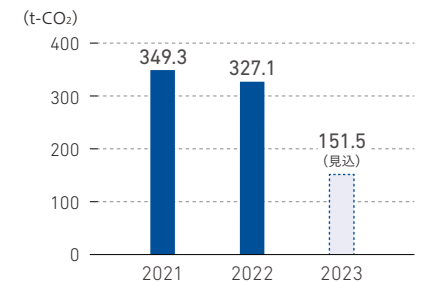
IPGにおいては、エネルギー・マネジメント、水リスク、環境負荷削減などを主要課題としてさまざまな取り組みを進めています。

直近での施策、計画として、以下を行っています。

- 工場屋上スペースを利用したソーラーパネルの設置
- 再生可能エネルギー電力の購入
- 冷却システムのクロードシステムへの変更による取水量・排水量の削減
- 各種溶剤開発による負荷削減

こうした取り組みの結果、2023年はCO₂排出量が前年比54%削減となる151.5t-CO₂となる見込みです。

クリーンエネルギー利用によるCO₂削減量



地域コミュニティとの共創

IPGは地域コミュニティおよび取引先との関係を重視しており、地域の子供たちが参加できるイベントを定期的に開催しています。また、取引先との合同研修では、安全・環境などについても触れ、一緒に良い事業推進に取り組んでいます。



外部取引先との合同研修

Message

このような取り組みはBRCの取得、EcoVadisの得点向上による新規受注から開始された活動ですが、各種の活動により、品質が向上するとともに地域への貢献が確認され、自分の会社を誇れるようになってきました。これからも継続して取り組みを進めていきます。

取締役副社長 松井 豊



持続可能な暮らしの新しい、タネをまく。

100年後にワクワクできる

全国の市町村に先がけて2019年12月「気候非常事態宣言」を発令した長野県白馬村。イノアックが地域の方々とともに革新を起こし、実践を通じて、持続可能な社会、白馬村にとっての「美しい森」を実現するため、ともに取り組みを推進しています。

4つのTANE

白馬村の地域課題に対し、イノアックは技術力、遊び、自然、経済の4つの「TANE」をテーマに、我々の製品や素材、技術を掛け合わせて、課題解決につながる行動を実践していきます。

技術力 Technology

イノアックの技術力で、白馬村の地域課題に革新を起こす。

遊び Activity

イノアックの製品を通じて、最高の遊び場を創造する。

地域課題

白馬村

SUSTAINABLE (持続可能性)
観光業の発展
時代への適合と次世代の継承
観光業以外の成長
新たな産業・雇用の創出

《白馬村が目指す姿》
いつまでも持続可能な地域へ

企業理念

INOAC

INNOVATION & ACTION (革新) (実践)
1本の大きな木を育てるより
多くの個性ある木を育て
美しい森をつくる

《イノアックが目指す姿》
より社会に必要とされる企業へ

自然 Nature

白馬村の豊かな自然を守るための、仕組みや方法を考える。

経済 Economy

白馬村の資源を活用した、新しい循環型経済を実現する。

先進的エコシステムを目指して (ビジネスモデルの確立へ)

2022年12月21日、白馬村に白馬事務所兼ショールームをオープンしました。イノアックがもつ素材や技術・製品(断熱材、健康寝具・捨てない寝具、旅行集客・海外移住者対応、村内企業の発展協働、green sportsの繁栄等)を活かし、白馬村の社会課題解決と便益をもたらします。地元根ざした活動を展開しながら、イノアックにとっての新しいビジネスモデル構築を実践していきます。

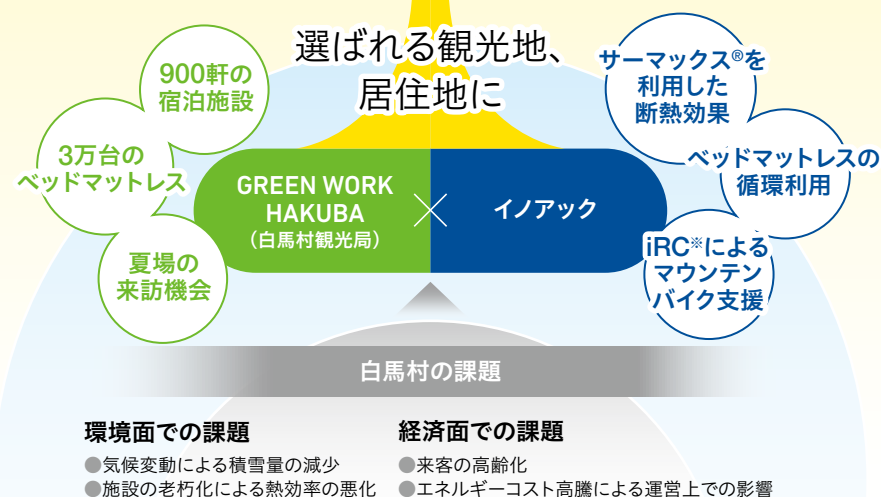
白馬村のサステナビリティ推進

白馬村

- 宿泊施設運営の効率化
- 観光事業のサステナビリティ化
- 若者世代の来訪増加
- 新しい産業づくり

イノアック

- 技術力による貢献
- 製品普及
- ニーズに即した研究開発
- ビジネスモデルの他エリアへの展開



※イノアックのグループ会社である井上ゴム工業がグローバルに展開するバイク、自転車用タイヤ・チューブブランド

Message

白馬村は、産業の7割を観光が占めるスノーリゾートであると同時に、気候変動による積雪量の減少や来訪者層の高齢化に大きな影響を受けている村です。将来を考えると、新たな産業の創出は不可欠であることから「GREEN WORK HAKUBA」プロジェクト®をスタートしました。御社は製品だけでなく、技術開発力もさまざまな知見もおもちのため、白馬村の課題を解決できる製品やサービスを一緒につくり上げることができます。断熱材のサーマックスを導入することで宿泊施設の暖房効率を高めたり、リユース可能なベッドマットレス3万台を宿泊施設に普及させることでサーキュラーエコノミー推進に貢献いただいたり、iRCからはマウンテンバイク普及の支援により、冬以外に楽しめるスポーツを盛り上げていただいています。白馬から新たなサービスや事業が生まれ、御社がそれを他の地域でも提供されるようになれば、我々にとっても非常に嬉しい展開です。

※サステナブルなマウンテンリゾートを目指し、3つのステップで白馬村の未来を考えるプロジェクト
GREEN WORK HAKUBA: <https://www.vill.hakuba.nagano.jp/greenworkhakuba/>



白馬村観光局 事務局長
福島 洋次郎さん

具体的な取り組み

学校との共創 プロジェクト型授業への協力による共創

イノアックは、白馬南小学校校舎の断熱改修サポートを皮切りに、白馬高校、白馬インターナショナルスクール(HIS)に断熱材サーマックスを提供し、校舎、宿舍を自ら改修するアクションをサポートしました。またHISでは、プロジェクト型授業を実践しており、イノアックも積極的に協力しています。白馬村900軒の宿泊施設に対して、ベッドマットレスのリサイクル実現のため、学生が主体となってマーケティング調査を行っています。多くの発見を共有しながら、一緒に白馬村でのサーキュラーエコノミー実現を行っています。



白馬インターナショナルスクール(HIS):
<https://www.hakuba-is.jp/>

Message

白馬インターナショナルスクールは、地域のサステナビリティをテーマとしたプロジェクト型学習※を重視している中高一貫校です。私たちが目指しているのは、自分で考え意見を持って行動する子どもたちを育てることです。白馬村では、2019年に高校生3人が気候変動に大きく影響される村に危機感を持ち行動したことで、村は「気候非常事態宣言」を出し、持続可能な社会への本格的な取り組みに舵をきりました。当スクールの生徒たちには、地域や企業の皆さんとともに責任あるプロジェクトを行うことにより、自分たち次第で世の中は変わっていくことを体験し、自己肯定感や自己効力感を持って欲しいのです。現在、御社とはマットレスでサーキュラーエコノミーのビジネスモデルをつくれぬか議論を重ねていますが、技術力の高さやモノづくりをする会社の強さを実感しました。一方、若い世代は発想力が非常に高いので、コラボレートさせていただくことで、御社になんらかのおもしろい視点をご提供できるかもしれません。中高生と一緒にビジネスモデルを考えようと決断してくださる企業は稀で、当スクールにとってはまたとない機会です。一緒により良い未来を描くことができるのは、夢のある本日に素晴らしいことだと思っています。

※教育機関と市町村、地元企業が連携し、プロジェクトを通じて自ら地域課題を発見し、解決することなどを実践する探究的な学習方法



白馬インターナショナルスクール
代表
草本 朋子さん

研究開発 観光を基軸とした寝具、バイクタイヤの研究開発

白馬村ではウインタースポーツだけでなく、マウンテンバイクの活動も活発です。iRCは1990年代からイベントに参加し、2022年からは白馬マウンテンバイククラブへの協賛を始めました。iRCのタイヤが装着された自転車のレンタル、キッズスクールを通じて、白馬におけるマウンテンバイクの普及とともに、顧客ニーズ把握、商品改善につなげています。



地域創生/行政連携 間伐材を活かした循環型家具づくり計画

HAKUBA VALLEYが抱える地域課題として、間伐材の有効活用があります。伐採の際に重機費用や人件費がかかるため、約200kgもの木を馬が運ぶ実証実験を実施しています。

将来的にはイノアックにてベッドフレームや家具づくりをし、付加価値のついた白馬ブランドとして供給できるよう計画をしています。間伐した後の道をマウンテンバイクや散歩コースとするなど、地元の方々がもつ地域課題の解決にイノアックが協力していきます。

家具製作に必須となる人工乾燥も、長野県林務課と連携して実現しようとしています。地元地権者、白馬村役場、建築組合、林業組合、マウンテンバイク関係者などをつなぎ、全体のシステム設計をイノアックで行う。このシステムを他の地域にも応用し、地域課題に貢献できればと、2023年より取り組みを開始しました。

HAKUBA VALLEY:<https://sdgs.hakubavalley.com/>



今後の展開

事業責任者の展望

新規事業立ち上げは、社内での理解を得ることに苦労します。ここでは白馬村観光局、教育機関、林業組合の方々と共創してイノベーションを促進し、関係者をつなぐシステム設計を行い、社内外で受け入れられる事業の立ち上げを実践します。また今年、地元出身者が入社してくれたように、さらなる地元の雇用と地域への貢献を行っていきます。



白馬村事務所 所長
煙山 貴紀